

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

統合教育センター／情報化・ICT活用推進センター

(責任者名) 石原 努／多川 孝央

(役職名) 統合教育センター長／情報化・ICT活用推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度より、本プログラムを開始し、同年度以降の入学学生から適用している。プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通の卒業要件必修科目として1年次に開講しており、入学学生には卒業要件必修科目でもある当該プログラムを履修するよう指導している。 令和6年度入学学生全体のプログラム履修率は96.0%。内プログラム修得率は、89.4%となった。
学修成果	教育プログラムの各科目で実施する「授業アンケート」の中で、受講した学生が感じている「学修成果(知識やスキルがどの程度身に付いたか)」を聞き取り、学生が苦手意識を持っている学修項目を明らかにした。これらの項目の学修成果が高まるように、来年度に向けて授業内容の改善を図っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では、全ての授業科目を対象に「授業に関するアンケート」を年間4回(前期中間・前期期末・後期中間・後期期末)実施している。アンケートには自由記述欄を設けており、学生からの率直な意見を収集できるようにしている。 結果は、担当教員が確認した後、フィードバックとして履修者に対しコメントを記述し、共有する仕組みとしている。これらのアンケートは、自己点検・評価活動とあわせて、本プログラムに関する検証および分析における基礎データとして活用している。あわせて、授業内では小テストや課題を通じて学生の理解度を把握している。 本プログラム構成科目の理解度(5点満点中)は以下の通り。 ・「情報処理基礎演習」: 平均3.94pt ・「データサイエンス基礎演習」: 平均4.15pt
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では、すべての授業科目を対象に「授業に関するアンケート」を年間4回(前期中間と期末、後期中間と期末)実施している。期末アンケートには、「この授業を後輩にも勧めたいか」という設問を含んでおり、「大いにそう思う」から「全くそう思わない」までの5段階で評価を得ることで、授業の推奨度を把握できるようにしている。 本プログラム構成科目の評価(5点満点中)は以下の通り。 ・「情報処理基礎演習」: 平均3.89pt ・「データサイエンス基礎演習」: 平均3.98pt

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する科目は、1年次開講の全学共通科目であり、卒業要件を満たす必修科目として位置付けている。このため、入学時の履修登録に際しては、オリエンテーションの場で履修指導を実施している。令和6年度においては、1年生全体の96.0%が当該プログラムを履修した。履修登録漏れを防ぐため、各学科・コースにおいて履修指導を徹底している。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度に開始され、現時点では修了者がまだ在学中であり、進路状況については確定していない。今後、修了者の進路について調査を実施予定であり、特に情報関連分野への就職を希望する学生も増えることが予想される。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムについては、現時点で産業界からの直接的な意見は得ていないものの、教育課程および学修成果の点検・評価を依頼している企業に対して、本プログラムに関する意見を求める機会を設けることを検討している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		社会で求められるインターネットを活用した情報探索・発信、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用し、各回でテーマに沿った具体的な課題に取り組ませている。また、AIおよびデータサイエンスの最新の動向を踏まえ、社会の変化やデータ分析について演習を通じて学ばせることにより、段階的に学びを深めている。これにより、文系学生の苦手意識を軽減し、達成感を得ることで、学ぶ楽しさや意義を実感できるような授業を提供している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		授業アンケートには、「授業の内容について十分に理解できた」「授業の難易度は適切であった」などの項目があり、それぞれを5段階（大いに思う、思う、どちらともいえない、そう思わない、全くそう思わない）で評価できる形式となっている。これらのアンケート結果は、担当教員が把握し、授業内容の改善に活用している。また、アンケート結果は全教職員にも開示されるため、担当教員だけでなく、統合教育センターにおいても授業内容および水準の維持・向上を図ることができる。